

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人 ネパール・ミカの会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「ネパールの子供たちに読書の楽しみを！」プロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

ネパール共和国では、政治・経済上の理由から現在においても子供たちが学ぶための校舎、教材、図書、学用品などが不足している状況にあります。特に地方では行政による支援が行き届いていないため、必要最低限の学校教育さえ受けることができない子供たちが多くいます。ネパールは日本に比べ子供の割合が高く、雨風をしのげる校舎と図書さえあるだけでも子供たちの学力は大幅に向上します。私たちはネパールの学校へ図書を寄贈することで子供たちが読書を楽しむ機会を増やすとともにネパールの子供たちの学力向上に貢献したいと考えております。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

ネパール・ミカの会では10年以上にわたりネパールの学校に対する図書支援事業を続け、累計で6,700冊を超える図書を寄贈しております。特にネパール・ルンビニ地区では子供の就学率および識字率が確実に向上しており(特に女子の就学率は顕著)全国学カテストにおいても優秀な成績を修める生徒が増えているという評価を得ています。これらの図書支援活動を継続的に行うために「教育支援の旅」によって会員が直接ネパールの学校を訪れ、各学校の校長などから必要な蔵書をリストアップしてもらい、こちらで精査したうえで本当に子どもたちが利用する、役に立つ図書を寄贈しています。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

私たちネパール・ミカの会では「心を含めて手から手へ」をモットーとしております。そのため直接ネパールで話を聞き、本当に必要とされているものを自分たちの手でネパールの人たちに渡すということを行っております。そのために寄贈した図書が役に立っているのか、今の子供たちがどのような図書を必要としているのか、どの程度の子供たちが利用しているのかを知ることができます。また、ネパールで日本語学校の校長を務めるヌルブ・ラマ氏がミカの会の理事としてネパール現地の情報収集・図書の調達・連絡役にあたるため、きめの細かく効率の良い支援活動を行うことが可能となっております。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

現在ネパールでは確実に子どもの就学率、識字率が向上しております。また中学校、高校、大学への進学率も増えてきております。少子化が深刻化している日本に比べ、ネパールでは子供の数が非常に多く教育支援を始めた15年前に比べても学生の数が飛躍的に増えています。そのような観点からもこれからも継続した教育支援活動を行うことには意味があると思います。子供たちが学ぶ機会を得て、日本とネパールとの間で交流が深まれば共に協力しあえる関係が築いていけるのではないのでしょうか。将来を担うべき子供たちの未来が明るいことを心から願います。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

